ベスト4進出

県相模原49年ぶり快挙

⚾高校野球 県秋季大会

県高校野球秋季大会（県高野連主催、神奈川新聞社など後援）第6日は20日、保土ケ谷・神奈川新聞スタジアムで準々決勝2試合を行った。県相模原が湘南学院に6―1で逆転勝ちしたほか、桐光学園が日大藤沢に4―3でサヨナラ勝ちし、ともに準決勝進出を決めた。県相模原は1965年以来、桐光は2年連続の4強入り。

県相模原は0―1の五回に後藤寛生（1年）の三塁打で追い付くと、七回にも後藤寛の適時打などで一挙5得点。エース宮崎晃亮（2年）は4安打1失点で完投した。

桐光は2―3の九回1死から恩地偉仁（2年）が左前打で出塁すると、中川颯（1年）の左中間二塁打で同点。中尾駿斗（2年）の右越え二塁打で逆転サヨナラ勝ちを決めた。

第7日は21日、同スタジアムで平塚学園―横浜隼人（午前10時）、東海大相模―慶応（午後0時30分）の準々決勝を行い、ベスト4が出そろう。

▽準々決勝

県相模原	000	010	500	6
湘南学院	010	000	000	1

【評】県相模原が終盤に相手主戦を攻略した。1―1の七回無死一、三塁から坂崎の右前打で勝ち越すと、後藤寛の適時打などで一挙5点を奪った。先発宮崎は最後まで力が衰えず、4安打1失点。五回以降は走者を一人も許さなかった。

湘南学院は攻守にミスが目立った。

七回のミスが響く

⚾…湘南学院はミスから流れを失った。1―1の七回無死二塁。投前犠打で関野が三塁刺殺を狙うも、野選となりピンチを広げると、外野手の失策も重なった。

「三塁へのフィールディングは得意なのでいけると思ったが」と背番号1。攻めても一回無死一、二塁の絶好機を併殺、けん制死で逸した。本萱監督は「ミスが多かった。細かいプレーの精度を上げないといけない」と悔やんだ。

それでも、指揮官は「悪いなりによく投げていた」とエースを評価。関野は「終盤に球が高めに浮いていた。春までに制球をもっと磨きたい」と雪辱を誓った。

着実に成長 関東視野

半世紀ぶりに扉を開いた。県相模原が終盤の勝機をものにし、1965年以来となる準決勝進出を決めた。

1―1の七回無死二塁。宮崎の犠打が野選となってチャンスを広げると、坂崎、後藤寛の連続タイムリーで2得点。さらに犠飛で1点を加え、佐藤勇が2点適時打でダメを押した。

「七回はスクイズも考えたが、よく打ってくれた」と佐相眞澄監督(56)。中でも「神懸かっていたね」とたたえたのが試合開始直前に8番から7番に打順を上げたという後藤寛だ。

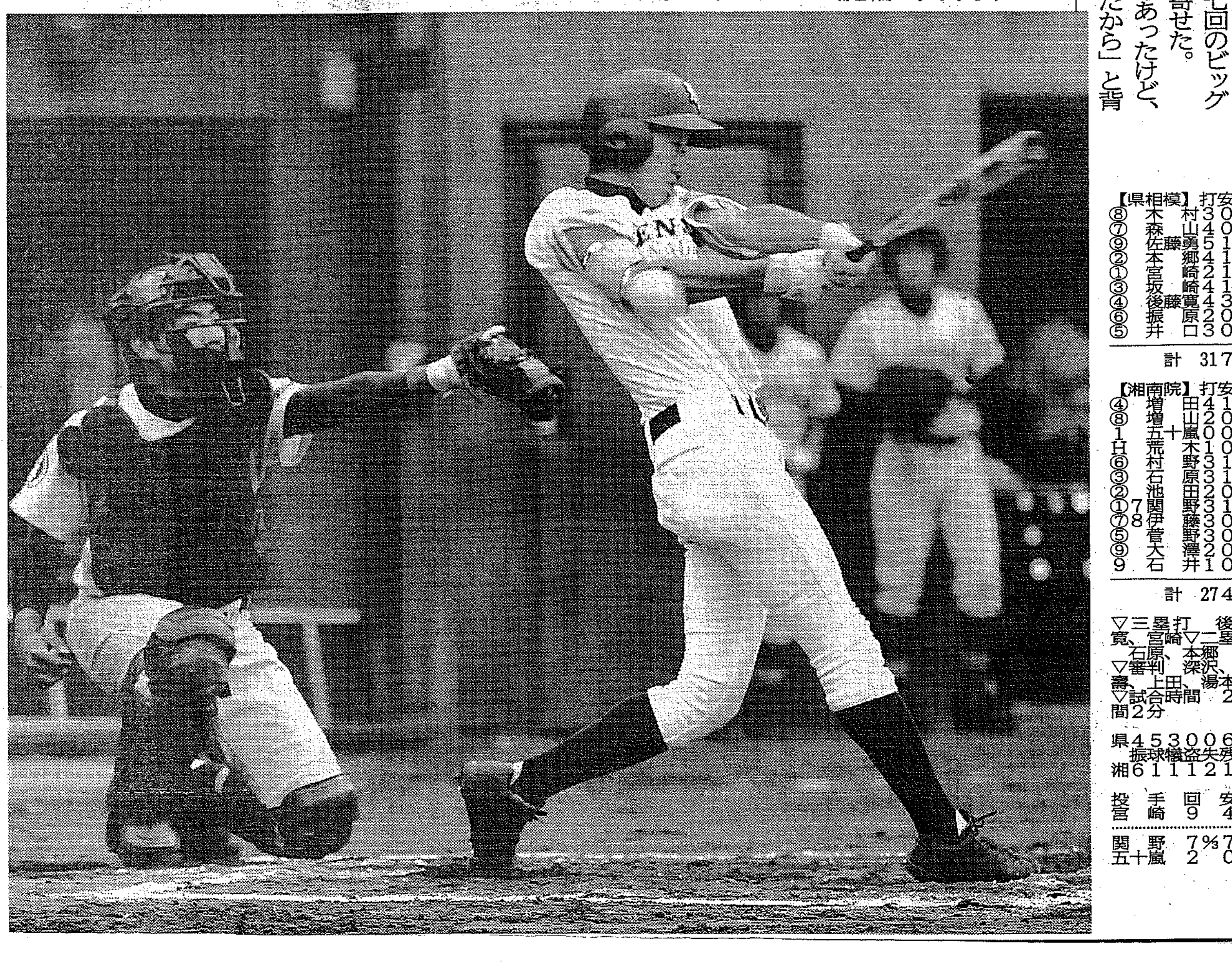
五回に同点三塁打を放つなど、この日3安打2打点。「佐相監督に教えてもらいたくて入学した」という1年生は「チャンスが来たら打ってやろうと思っていた」と頬を緩めた。

もっとも、主役は後藤寛だけではない。エース宮崎は五回以降をパーフェクトピッチング。威力抜群の直球は衰えることはなく、七回のビッグイニングを引き寄せた。

「序盤は緊張もあったけど、夏の経験があったから」と背番号1が言うように、春16強、夏8強に続いて一段ずつ階段を上り、チーム力は確実に上がっている。

「ここまで来たら、何としても関東大会に行きたいよね」と指揮官が言えば、投打のヒーローも「入学した時から選抜大会を目標にしてやってきた」と声をそろえる。創部初の快挙へ、戦いはこれからだ。

（須藤　望夢）



【湘南学院―県相模原】7回表県相模原無死二、三塁。後藤寛が中前に3点目のタイムリーを放つ。捕手池田＝保土ケ谷・神奈川新聞スタジアム（花輪　久写す）

【県相模】	打	安	点
⑧木村	3	0	1
⑦森山	4	0	0
⑨佐藤勇	5	1	2
②本郷	4	1	0
①宮崎	2	1	0
③坂崎	4	1	1
④後藤寛	4	3	2
⑥振原	2	0	0
⑤井口	3	0	0
計	31	7	6

【湘南院】	打	安	点
④増田	4	1	0
⑧増山	2	0	0
1五十嵐	0	0	0
H荒木	1	0	0
⑥村野	3	1	0
③石原	3	1	0
②池田	2	0	0
①7関野	3	1	1
⑦8伊藤	3	0	0
⑤菅野	3	0	0
⑨大澤	2	0	0
9石井	1	0	0
計	27	4	1

▽三塁打　後藤寛、宮崎▽二塁打　石原、本郷▽審判　深沢、福壽、上田、湯本▽試合時間　2時間2分

	振	球	犠	盗	失	残	併
県	4	5	3	0	0	6	2
湘	6	1	1	1	2	1	0

投手	回	安	責
宮崎	9	4	1
関野	7⅔	7	5
五十嵐	2	0	0

9回裏桐光学園、サヨナラ打を放った中尾（右から2人目）と喜び合う桐光学園ナイン

桐光 集中打でサヨナラ

▽準々決勝

日大藤沢	000	020	100	3
桐光学園	000	001	012x	4

【評】桐光学園が土壇場の集中打でサヨナラ勝ち。2―3の九回1死一塁から中川の左中間二塁打で追い付くと、2死後に中尾の右越え二塁打で劇的な勝利を収めた。最終盤でも狙い球を逃さない積極性が光った。

日大藤沢は滝川が毎回走者を出しながら粘投するも力尽きた。

滝川「冬に追い込む」

⚾…日大藤沢はエース滝川が要所を締めていたが、最終回に変化球の精度が落ちたところを狙われ、サヨナラ負け。山本監督は「我慢比べではやはり桐光が上。精神力も含めてまだ弱い」と振り返り、滝川も「冬に自分を追い込み、最後まで投げきれるようになりたい」とうなだれた。

今夏は初戦で厚木に敗れて「例年の3倍ぐらい練習した」と指揮官。「新チーム結成当初から比べるとよくここまで来たと思うが、負けちゃいけない」と悔しさをにじませた。

【日　藤】	打	安	点
⑤内田	5	4	0
⑥秋元	5	3	1
⑦中村	3	0	2
③西川	4	0	0
②下地	4	1	0
④亀井	3	0	0
⑨頼住	3	1	0
⑧菊地	4	2	0
①滝川	4	1	0
計	35	12	3

【桐　光】	打	安	点
④根本	5	0	0
⑤田中幸	4	1	0
⑦1恩地	4	3	0
①6中川	5	1	1
②大坪	4	1	0
⑧中尾	4	1	1
⑨大工原	3	2	1
③松尾	3	1	0
⑥芦川	1	0	0
7上條	2	0	1
計	35	10	4

▽二塁打　恩地、中川、中尾▽暴投　滝川2▽捕逸　下地▽審判　高田、齊藤、安部、永田▽試合時間　2時間17分

	振	球	犠	盗	失	残	併
日	10	1	3	1	0	9	0
桐	3	5	2	0	0	12	0

投手	回	安	責
滝川	8⅔	10	4
中川	4⅓	7	2
恩地	4⅔	5	1

狙い球の徹底 実結ぶ

追い込まれてもなお強い。2―3の九回1死。桐光学園打線は積極攻勢を失わなかった。

恩地が左前打で反撃の口火を切ると、続く中川の左中間二塁打で同点。2死二塁となるも、中尾が初球のカーブを迷いなく振り抜き、ライトの頭上を越える二塁打でサヨナラの走者をホームに迎え入れた。

「カーブが来ると思っていた」。歓喜の輪に飛び込んだ背番号8はそう胸を張り、野呂雅之監督(53)も「故障を抱え、これまで縁の下で頑張ってきた選手が打ったのは良いこと」と目を細めた。

チャンスをつくりながらも、日大藤沢・滝川の直球に負け、攻めきれなかった。指揮官が中盤以降ナインに徹底させた指示は「高めのストレートは捨て、低めを待つ中で変化球にタイミングが合えば振りなさい」。1ストライクから振り抜いた恩地に続き、中川、大坪、中尾と打ったのはいずれも初球。狙い球の徹底が最終盤に実を結んだ。

「きょう一日は素直に喜んでいいかな」と安堵（あんど）の表情を浮かべる野呂監督。殊勲の中尾は「これまでもこういうゲームを勝っているから自信はあった。うれしいの一言」と足取り軽くバスに乗り込んだ。

（須藤　望夢）